

大豆の安定生産技術向上

雑草退治で収量間差の解消！

活動年次：令和3～4年

石狩農業改良普及センター本所

1 課題設定の背景

現状 対象：漁太地区における中核的農家6戸

- 漁太地域の概況：中核農家※へ農地集積が進んでいる。
- 大豆の作付面積：中核農家(6戸)を中心に、大豆の作付面積が増加。
※中核農家：65才未満かつ農業所得を主としている農家。地域の中核。
- 地域の問題：中核農家間の除草技術を中心とした技術レベルの差が大きく、地域内における収量格差の要因となっている。

作付面積の推移(ha)

年度	H27	R2
大豆	42.2	56.1

教えたけれど経営に係わるから…

他の家の技術を知りたい



若手農家



ベテラン農家

課題解決に向けて

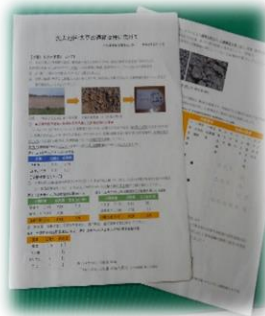
- 『**除草対策**』を中心に、技術継承の場を形成。
- 栽培技術水準を平準化
☞ 地域内の収量格差の縮小を図る。

2 活動の経過



草種を調査し対策を相談
(埋没雑草調査の実施)

中耕作業の適正化を支援
(メーカーと連携した現地講習会)



Fax・巡回による栽培支援
(適期は種・土壌処理に関する栽培資料)

普及は
『提案支援型』
の活動を展開

技術を共有する環境作り ➡ 技術の平準化

3 活動の成果 *****

栽培技術の向上(優良事例)

除草時間の削減



F氏: 11h27min/10a



F氏: 9h23min/10a

除草時間: 18%減!

生育量の改善



(R2. 9. 23)

D氏: 茎長35cm程度

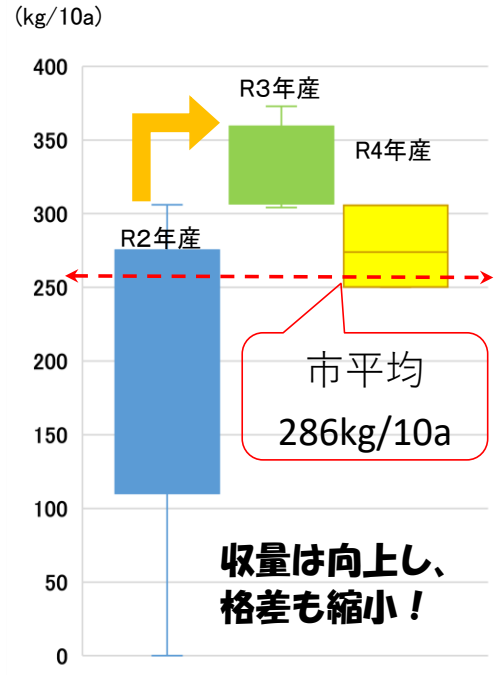


(R3. 9. 26)

地区平均
約67cm

D氏: 茎長80cm

地域の収量・格差の推移



いつもより丁寧に作業したよ!

手取り作業が楽になった!

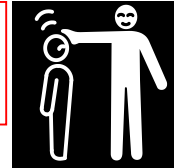
土壌・茎葉処理の適正化



中耕作業の適期・適正化



雑草の発生量減少!



農業者の行動(除草対策)変化と労働コスト(手取り除草)の推移

農業者	土壌・茎葉処理の適正化			中耕処理の適正化			雑草量の減少程度			労働時間						
	R2	R3	R4	R2	R3	R4	R3		R4	R3	R4					
A	○	→	○	○	○	○	0	→	0	2	→	0	○	○		
B	○	→	○	○	○	○	0	→	0	1	→	0	○	○		
C	△	→	△	○	△	→	△	○	9	→	1	206	→	39	△	○
F	×	→	○	○	△	→	○	○	19	→	7	206	→	39	○	○
D	×	→	△	○	△	→	○	○	139	→	7	103	→	28	△	○
E	○	→	○	○	△	→	○	○	9	→	1	68	→	8	○	○

※土壌・茎葉処理: ○=両方実施、△=どちらか一方のみ、×=未実施

※中耕処理: ○=適期2回以上、△=1回または作業の遅れ、×=未実施

※労働時間: 手取り除草が3.5h/10a未満=○、3.5h/10a以上=△

4 今後の活動 *****

- ・ 地域内の技術平準化を達成したため、活動はR4年で終了
- ・ 活動内容を関係機関と共有し、雑草による低収、手取り除草の負担に悩む農業者へ波及を図る